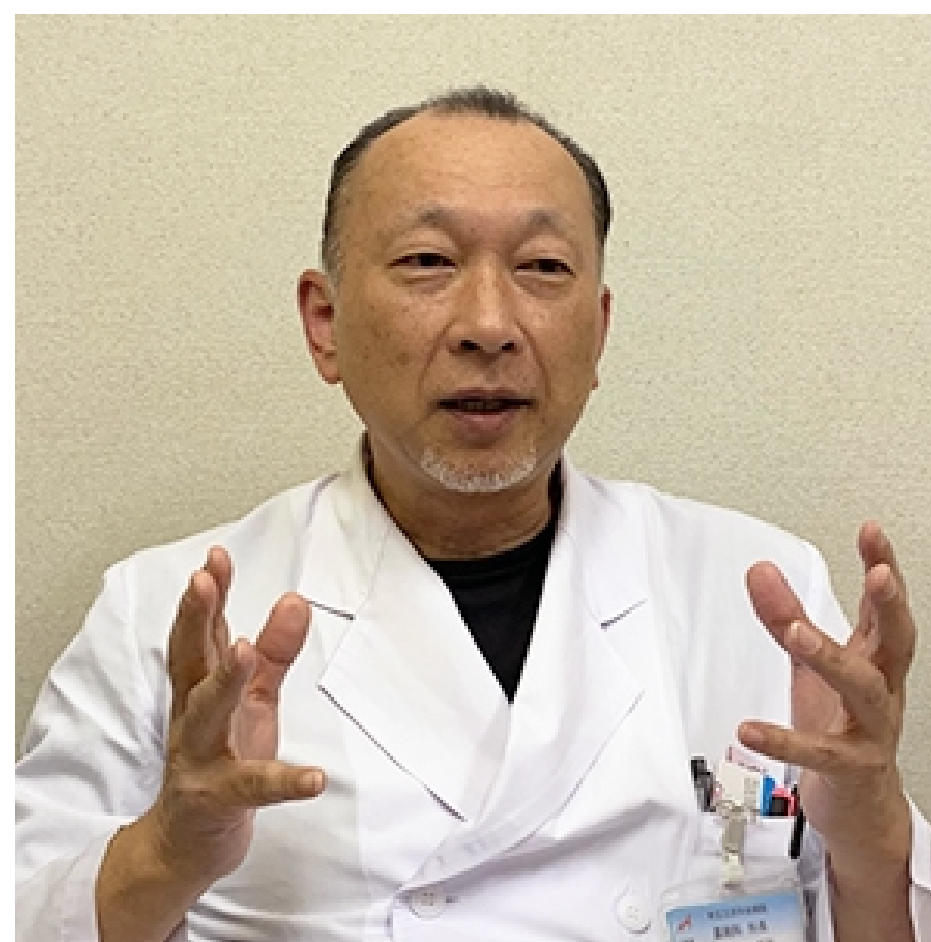


施設の取り組み

沢井製薬 医療関係者向け総合情報サイト「sawai medical site」では、国内の様々な地域や施設の取り組みをご紹介します。

備北エリアにおける薬剤師の活躍支援

三次薬剤師会会長 / 株式会社ファーマシィ参与 中村 徹志 先生



三次薬剤師会会長
株式会社ファーマシィ参与

中村 徹志 先生

01 備北エリアにおける薬剤師の協働

備北メディカルネットワーク（MNW）発足以来、医師に関しては、既に他の病院と相互に行き来するカタチで人材不足を補えるようになってきています。一方、薬剤師に関してはまだその段階には至っておらず、大学病院など病床数の多い施設との比較では、備北MNWに加入するどの病院も薬剤師は少し足りていない現状があります。保険薬局についても同様で、薬剤師の不足を施設間で補い合うといったことは、現時点ではできていない状況です。

一方、このエリアでは以前から薬剤師間の横の繋がりが強く、薬剤師を対象とした研究会を、エリアの病院薬剤師会北支部と薬剤師会三次支部で連携して進めています。研究会で取り上げるテーマについても、保険薬局の薬剤師と病院薬剤師で話し合いながら決めていきます（図1）。研修内容によって、医師に参加を依頼したり、逆に医師の研修会の方に薬剤師が参加したりと、医師との関わりもある程度は進んできたと感じています。

図1 備北地域医師育成活躍支援協議会 合同研修会の事例



研修企画
募集中!

TV会議システム(BigPad)でつなぐ
備北地域で働く医師のための
初期診療セミナー⑧
地域で研鑽しながら、志の高い医師を目指して

平成29年 2月3日(金) 18:00~19:10
市立三次中央病院 健診センター2F 講堂
庄原赤十字病院 西棟6F 会議室

座長 市立三次中央病院 外科 平野 利典

特別講演 「感染症シリーズ1」
救急外来における頭部から胸部の感染症
講師 県立広島病院総合診療科 谷口 智宏 先生

18:00
~19:00

主催: 備北地域医師育成・活躍支援協議会
問い合わせ先: 市立三次中央病院 病院企画課 後藤・佐々木
問い合わせ ☎ 0824-65-0101

(備北地区 医師の会)

02 病院薬剤師・保険薬局薬剤師に求められる 専門性

研修会はおおよそ2回の頻度で開催しており、各回のテーマは、4月以降の1年度分をまとめて設定しています。内容としては、日本全国どこでも同じ治療を受けられるよう、治療の標準化を目指すもので、がん、循環器、糖尿病など診療カテゴリーごとに研修担当を置いて、その担当者が中心となって案を出すなどしています。講師は、当該分野を得意とする薬剤師が担います。例えば精神科のない施設では、精神科領域の知識がなくても問題ないということではないため、多様な領域のテーマを取り上げるようにしています。

病院薬剤師と保険薬局の薬剤師では、求められる知識が異なる面もあります。病院には入院患者さんがおり、一人では動けない重症や中等症の方も多くいます。一方、保険薬局の窓口に来られる患者さんは、中等症以上の方はあまりいないけれども、さまざまな病気の方が来られるため、保険薬局の薬剤師はジェネラリストであることが求められます。病院には各領域の専門家がいるので、わからない場合は尋ねたり、代わってもらったりすることも可能ですが、保険薬局ではそうはいかないことも多く、患者さんのニーズに対応するためには、個々の薬剤師に幅広い知識が求められます。そういった部分もフォローできるよう、研修会に取り組んできました。

コロナ禍の期間中、研修会はオンライン開催で月1回程度となりましたが、回数が減っても、可能な限りさまざまなカテゴリーを網羅すべく取り組んできました。研修会に対する参加者の評価についてアンケート調査などはしていませんが、個別に話を聞く限りでは好評で、次はこれをしてほしいといった要望も出てきています。

03 地域包括ケアにおける薬剤師の連携

地域包括ケアでは、医療、介護に加えて、住居や生活支援などのニーズに包括的に応えられるシステムが必要だと考えます。実際、保険薬局を利用される患者さんは増えてきており、なかにはコストを度外視して、患者さんから依頼されれば薬剤を届けるなど、地域のためにコツコツと対応されている薬局もあります。

現時点で病院薬剤師ができる内容としては、地域の保険薬局に患者さんをしっかりとバトンタッチすることだと考えます。病院と保険薬局との連携ツールとして、以前はお薬手帳をよく使用していたのですが、今は、急を要するものではない場合において、トレーシングレポートを中心に活用しています。トレーシングレポートの策定に際しては、広島県病院薬剤師会と広島県薬剤師会の両方で委員会を立ち上げ、1つのフォーマットを作り、広島県内全域の共通のトレーシングレポートとして活用しています。最近では保険薬局にも活用が広がっており、内容も充実したものになってきています。

薬剤の適正使用の観点からも、保険薬局が担うところは大きいと思います。備北MNWに参加する4病院のうち、院内処方1施設のみで、クリニックの先生方も今は院外処方の方が多く、患者さんの残薬などの確認を含め、保険薬局で管理して報告するため、連携が大切です。

不明点などがあれば、病院と保険薬局がお互いに電話で問い合わせるような関係ができていますが、クリニックや病院の医師との繋がりについては、まだ少し壁はあるかなという感じです。

以前よりは薬剤師に対する医師からの信頼度は上がってきているところです。例えばクリニックから診療中に、最寄りの薬局に薬剤について電話で問い合わせられたりすることもあります。そうした連携を、もう一歩進めることができると感じています。

地域医療全体を考える場合、医師、行政、福祉、そして薬剤師の連携が全体として進んでいかないと医療は進みません。こうした連携が今後の課題だと考えます。

04 地域フォーミュラリの策定・施設間での薬剤業務の協同に向けて

備北MNW設立後、備北MNW参加の4病院の事務方と薬局長が集まり、使用頻度の高い薬剤トップ100のリストの作成や、後発医薬品の購入状況の調査など、各施設での薬剤使用に関する状況把握を進めていました。そうしたデータをもとに備北地区版地域フォーミュラリの検討を進める予定でしたが、コロナ禍に見舞われてしまい、少し停滞しているという状況があります。

地域フォーミュラリの策定には、困難な面もあります。4病院のいずれも、その成り立ちや仕組みが少しずつ異なるため、一気に共同購入まで進めることは難しいところがあると思っています。メリットを価格に求めるのか、後発医薬品だけではなく先発医薬品も絞り込むのか、さらに供給の安定性や信頼性をどう確保するかも、備北地区版地域フォーミュラリ策定に関連する検討課題です。

こうした課題に取り組みつつ、施設間での薬剤師派遣の実施や、薬剤売買を通じたデッドストックの解消などにも取り組んでいきたいと考えています（表1）。

表1 備北メディカルネットワークの目指すもの（薬剤編）

1. 地域フォーミュラリーの実現
※後発薬剤だけではなく、先発薬剤を中心とした
備北メソッドの確立
2. 施設間での薬剤師派遣
※災害・病気・長期休暇等による薬剤師不足の解消
3. 施設間内での薬剤売買
※薬剤の使用促進(デッドストックの解消)
※厚生労働省と交渉中

（取材日：2022年7月21日 オンラインにて実施）